

日本リハビリテーション工学協会 SIG 姿勢保持(編)

小児から高齢者までの姿勢保持 工学的視点を臨床に活かす 第2版

染谷淳司

(東京小児療育病院・みどり愛育園/
らっこ支援者の会代表)

1980 年以来、工房や車いす製作者、時には著者たち SIG 姿勢保持運営スタッフと共労し、小児や重症児・者など多様な障がいをおもちの方々の姿勢保持環境の改善やスポーツに関与してきた理学療法士として、感想を述べさせていただく。

総論の第1章「姿勢保持の基礎知識」では、姿勢保持の概要と歴史、姿勢保持装置の基礎知識やチェックポイントが簡潔明瞭に記載されている。そして、第4章「姿勢保持装置製作の実際」に連携し、実践的な知識や技術が紹介されている。日本における姿勢保持の分野をリードし、歴史を築かれてきた繁成剛、飯島浩の両氏を中心に、工業デザイン・リハビリ工学技師たちがこれらの骨格を担い著作されている。さらに、厚生労働省障害福祉専門官の高木憲司氏による特別資料「座位保持装置・車いすなどに関する支給制度について」は端的・詳細・最新情報である。以上で、過去から現在に至る姿勢保持について有効に学べる内容である。

応用編では、第2章「小児」で、脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィーに関しての「問題点とチェックポイント」も含め力作的に記載されている。著者の露峰牧子氏の「身体だけでなく精神的、心の成長も含めて経験させたい」という言葉が強く印象に残る。そして、「小児疾患における姿勢保持の基礎と実際」の辻清張氏も経験豊富な理学療法士である。作業療法士の堀口淳氏(「日常生活」)、教員の篠原勇氏(「教育現場」)、工学士の中村詩子氏、理学療法士の榎勢道彦氏、彼ら

は真摯に障がい児・者に寄り添ってきた方々であり、その経験に基づいた指針と事例的アプローチが紹介され大いに参考になる。

第3章「高齢者」4. 高齢者介護施設における姿勢保持で齋藤芳徳氏は、「生きようとする意欲を支える」ことを合い言葉として掲げ、入所利用施設での介護システムと住環境、姿勢保持、車いす、入浴の支援などについて、多面的に行動様式論としてとらえて論じている。

第5章「生活支援と姿勢保持」では、遊び、コミュニケーション、さらに、水・乗馬・スキー、自転車、セーリングなどと、スポーツ参加をも保障するための姿勢保持が紹介されている。今回の改訂に伴う加筆もあり、その機能援助のための特記と貴重な実践から培ってきた具体的な器具・環境支援の実績が紹介されている。著者らの「共に人生を楽しむ」心意気とその援助の術が伝わってくる。

健康であり、隣人と共に歩みたいと誰もが願うであろう。「小児から高齢者まで」の方々が、自らの厳しい障がいや加齢を「工学的視点を臨床に活かす」ながら受容し乗り越えて、日々の生活に意欲的に臨んでいく。その生活基盤は、メリハリがあり、生き生きとした「姿勢保持」の展開であろう。著者たちは、日本の「姿勢保持」を築いてきた多彩なエンジニアやセラピストなどであり、豊富な経験と実績を有している。その持ち前の本領を発揮し、共労してつくり上げたのが的確なタイトルを冠したこの書籍である。見やすいイラストや写真も多用され、わかりやすい構成になっている。当事者、初心者から経験者までのサポーター、多くの関係者の方々が「姿勢保持」の歴史、基礎から応用までを正しく学べる有益な書であるといえるであろう。

●B5・256 頁・2 色刷

定価 4,935 円(4,700 円+税 5%)

2012 年 医学書院刊